



PRESS RELEASE

2026 年 7 月吉日
株式会社 印傳屋上原勇七

印傳屋の芸術文化振興活動が メセナ活動認定制度「This is MECENAT 2026」に認定されました

株式会社印傳屋上原勇七（代表取締役社長：上原勇七）は、1582 年の創業以来「甲州印伝」の担い手として“鹿革と漆”の伝統を守り、先人の技を磨き続け、その時代の人々に求められる製品づくりに挑み続けています。また、『人間尊重』を基本とし人と環境、そして社会へ貢献する企業理念のもと、地域の文化的な発展に努めています。

このたび、公益社団法人企業メセナ協議会（以下「企業メセナ協議会」）が実施するメセナ活動認定制度「This is MECENAT 2026」において、印傳博物館の運営と国際古楽コンクール＜山梨＞への支援活動が優良なメセナ活動として認定されました。



■企業メセナ協議会「This is MECENAT」について

「This is MECENAT」は、企業などが取り組むメセナ（芸術文化振興による豊かな社会創造）活動を有識者の審査により認定する制度です。全国各地で多様に展開されている企業メセナの社会的意義を示すことを目的として、2014 年にスタートしました。多彩なメセナ活動を認定し、各活動に光をあてることにより、芸術文化による豊かな社会づくりを推進していくことを目的とした制度です。

企業メセナ協議会（公式サイト）：<https://mecenat-mark.org/>

「This is MECENAT」認定内容

印傳博物館の運営における重点テーマ

鹿革工芸品である印伝を展示や映像を通してその技法を後世に伝えます。地域の産業としてその技術を継承し、新しい感性や時代のニーズにあったものを生み出していくことを大切にしています。



■印傳博物館とは

印傳博物館は、1999 年に印傳屋本店 2 階に併設された、伝統的工芸品「甲州印伝」の企業博物館です。印伝の作品や鹿革工芸品・道具などを収集し、技法や模様・鹿革の多様な用途の資料を特集した展示を行っています。鹿革工芸品の文化を後世に伝えるという先代の想いを受け継ぎ、伝統工芸技術をはじめ民俗文化財の保存や活用の在り方・文化観光や地域とのつながり・伝統産業の教育普及などを社会動向に合わせて発信していきたいと考えます。

「This is MECENAT」認定内容

国際古楽コンクール<山梨>への支援活動における重点テーマ

「古楽」の分野に特化した日本唯一のコンクールとして、優れた人材を発見・育成し、彼らに将来活躍できる機会を提供しています。



■国際古楽コンクール<山梨>とは

国際古楽コンクール<山梨>は、1987 年に発足した古楽演奏のコンクールで、日本で唯一の専門性を持つ古楽の国際舞台として長年続いています。古楽とはバロック・ルネサンス期など過去の音楽を、その時代の演奏法や楽器で再現する演奏様式で鍵盤楽器（チェンバロ、フォルテピアノ）や声楽、アンサンブルなど多彩な部門が設けられることもあります。コンクールは毎春に甲府市内のホールや図書館などで実施され、予選・本線を含む 3 日間の音楽祭として開催されます。国内外から演奏家や聴衆が集い、演奏技術・解釈・様式理解が審査されるほか、関連コンサートや展示会も併せて開催されるなど、古楽の理解と普及に貢献しています。